題　言

國土を生す河川工事

狹小なる國土に多數の同胞が生きん爲には、技術的な合理工事を最も必要とする。特に自然災害を被る事の多き我國に於ては、災害を防禦するのみならず、進んで其天然力を利用する事に獨特なる施設がなくてはならない。

我々は以上の言をしばしば先輩の口から聞いた。それが今や漸く實現されんとしつゝある。

本號に蒐集したる河川工事の寫眞は先づ今日の我國を代表するものである。洪水防禦と河川の利用に就ては將來益々特種の名工事が出現するものと思はれる。

セミ・ハイドロリツク・フイル・ダム

七年前、工事畫報創刊の年に於て初めて畫報としたる臺灣嘉南大圳の大堰堤工事は、設備の大規模なると施工法のセミ・ハイドロリツク・システムなるとに於て我國の劃期的工事であつた。且つ堰堤以外の水路工事の規模も實に大なるもので幾多の研究的工法を應用され、今年春此の巨大な水利工事も無事に完成して、日本工事史上に一大偉觀を呈する事となつた。

本號に掲載したるものは數百枚の工事寫眞中より特に代表的のものを選出したるもので卽ち臺灣に足を運ばずして、此大工事を視るに充分なるものである。

此等大工事の第一線に立つた八田與一氏は目下臺灣總督府土木課に在りて、臺灣水利協會を指導し、百瀨泰次郎氏は東京に在つて水工社を興してゐる。本號に關しては兩氏及び現烏山頭支所長阿部貞壽氏の好意に依るものである。

鬼怒川改修の特異點

從來河川の改修工事と言へば、川幅を廣くし、又は堤防を高くし、屈曲を正す等にして、之が爲に護岸工事凌渫工事迄も生じたものである。一時的の洪水を無事に流下する爲に、河川全體に斯の如き施設をする事は幾分か無駄な樣でもある。

若し河川の條件が許すならば、洪水時丈け其洪水量を一時的に山間に貯へ、除々に之を流下したならば、下流も安全であり、下流の改修工事も簡單ですむ。此貯水池を山間に造るには地形を利用して、高堰堤を設ければ良いのである。此種の堰堤が今や鬼怒川の上流山間に於て工事進行中である。堰堤一箇で河川改修の目的が達せらるれば實に結構な事があるが、其所には又種々な問題が出て來る事と思ふ。兎に角日本の河川改修工事としては劃期的な堰堤計劃である。

鐵道省に於ける技術家の勢力

七月一日發表鐵道省に於る整理職員中にはダイヤモンド級の人物が在る。此から光を發揮しやうとする時代にやられては鐵道省の損害のみではない。然し此級の人は民間にあつても相當な光を發揮するであらう。又必ず大に發揮して貰い度いものである。而して省内の新人と相俟つて、技術者の權威を示され度い。我等は今回の整理の跡に鐵道省に於ける技術者の勢力の凋落を見るからである。